フィールド風（現場）からの風 605

宮田守男

7月上旬、松本信用金庫白馬支店の取引先がつくる「信白会」が企画した親睦研修会「福井県立恐竜博物館とあわら温泉」の旅に参加する。能登半島地震から半年、地域復興の一助にと企画した旅だ。

恐竜博物館は恐竜に関する資料を中心に国内最大級の博物館で、恐竜の全身骨格50体の展示の魅力もあり修学旅行生や国内外から訪れた旅行者でにぎわっていた。広大な無柱空間を利用したジオラマなどの展示は、恐竜をはじめとする地質・古生物の世界を堪能することができた。2000年に総額約140億円の総事業費で黒川紀章さんが設計し竣工、昨年全体事業93億円超でリニューアルオープンした福井県の観光に対する意気込みが随所からにじみでていた。

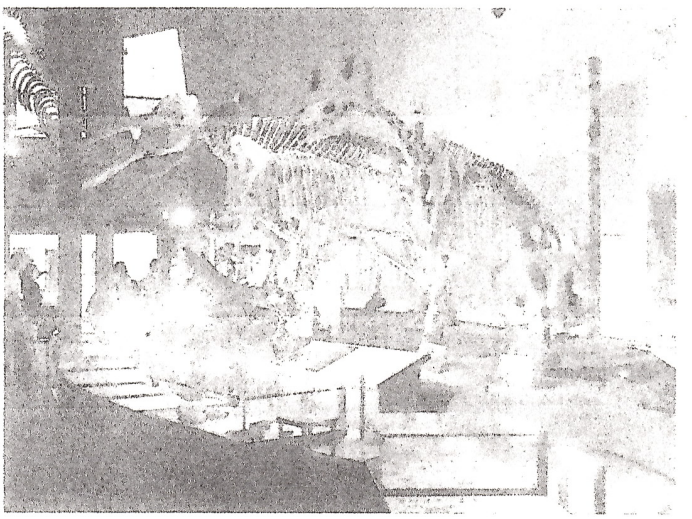
宿泊は「あわら温泉ホテルまつや三千（せんせん）」に。北陸最大級のスケールの源泉大浴場・大露天風呂に参加者は大満足に。路線価上昇率全国第一の白馬のお客様から観光の取り組みをとの思いからか女将は宴会場で一人一人の話を真剣に聞く姿は強く印象に残った。海外からのお客様は数多くない状況だが、積極的に学ぼうとする経営を続けて行けば、更なる良質な宿になること違いない。

旅する楽しみを求めて

何回か訪れたことのある東尋坊の荒涼感漂う街の疲れ方に驚くが、数軒改修の終了した店舗が気になった。経営者に尋ねると令和5年から地域の歴史・文化・自然等の特性を生かした個性あるまちづくりを目的とした都市再生整備が令和9年まで実施されるとの情報。日本海が望める起伏のある場所を掘り下げてビジターセンターを整備し完成後は土で埋め戻す工法での内容や、渋滞回避を目的の道路整備や市営の駐車場の拡張などの便利さを優先した事業内容が、天然記念物の三大な柱状の岩石が織りなす豪快な岸壁が魅力な東尋坊にとって、海からの視点で考えても本当に良いのか心配になる。

買物も旅の楽しみの要素だ。今回は日本海最大級の海鮮市場「一日本海さかな街」に。一時期衰退した市場は、北陸新幹線の敦賀までの開業もあり活気ある市場に変身。鯖などの多くの海産物を買うことができた。

今回も松本信用金庫白馬支店から金井支店長と三島支店長（ご一緒）に感謝しつつ、一貫して参加者と懇談する温かなある大（信白地域社会ファンクラブ会員・白馬村在住）



ドーム型の展示施設は、敷地の高低差の中に沈みこませる自然と一体化した建築が魅力だ